

(様式第 10)

関病発第 17X04 号
平成 29 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 関西医科大学
理事長 山下 敏夫

関西医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒573-1010 大阪府枚方市新町2丁目5番1号
氏 名	学校法人 関西医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

関西医科大学附属病院

3 所在の場所

〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目3番1号	電話 (072) 804 - 0101
------------------------------	---------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
<input checked="" type="checkbox"/> ①呼吸器内科 <input type="checkbox"/> ②消化器内科 <input type="checkbox"/> ③循環器内科 <input type="checkbox"/> ④腎臓内科	
<input type="checkbox"/> ⑤神経内科 <input type="checkbox"/> ⑥血液内科 <input type="checkbox"/> ⑦内分泌内科 <input type="checkbox"/> ⑧代謝内科	
<input type="checkbox"/> ⑨感染症内科 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 <input type="checkbox"/> ⑪リウマチ科	
診療実績	
アレルギー疾患内科またはアレルギー科の内容は呼吸器内科、小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科で診療している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す

ること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4 心臓外科 ⑤血管外科 ⑥心臓血管外科 7 内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績 内分泌外科の内容は、耳鼻咽喉科、泌尿器科で診療している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑬麻酔科 ⑭救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 小児歯科 2 矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 血液・腫瘍内科 2 肝臓内科 3 心療内科 4 糖尿病内科 5 肝臓外科 6 胆のう外科 7 膵臓外科 8 頭頸部外科 9 形成外科 10リハビリテーション科 11病理診断科 12臨床検査科
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	751床	751床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
----	----	-----	----	----	----	----	----

医 師	325人	31.9人	356.9人	看護補助者	59人	診療エックス線技師	人
歯科医師	2人	0.5人	2.5人	理学療法士	22人	臨床検査技師	72人
薬剤師	58人	人	58人	作業療法士	6人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	8人	その他	人
助産師	34人	1.4人	35.4人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	828人	22.4人	850.4人	臨床工学士	20人	医療社会事業従事者	8人
准看護師	人	人	人	栄養士	人	その他の技術員	28人
歯科衛生士	4人	人	4人	歯科技工士	人	事務職員	139人
管理栄養士	6人	1.5人	7.5人	診療放射線技師	40人	その他の職員	人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	23人	眼科専門医	12人
外科専門医	34人	耳鼻咽喉科専門医	11人
精神科専門医	1人	放射線科専門医	14人
小児科専門医	15人	脳神経外科専門医	6人
皮膚科専門医	5人	整形外科専門医	11人
泌尿器科専門医	12人	麻酔科専門医	13人
産婦人科専門医	9人	救急科専門医	10人
		合計	176人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (澤田 敏) 任命年月日 平成25年4月1日

医療安全管理対策委員会委員長として、平成25年4月1日から現在まで業務を担当している。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	647.6人	0.3人	648人
1日当たり平均外来患者数	1400.4人	20.9人	1421.3人
1日当たり平均調剤数			909.8剤
必要医師数			151人
必要歯科医師数			3人
必要薬剤師数			22人
必要(准)看護師数			379人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
			病 床 数		心 電 計	
集中治療室	891.70m ²	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)耐火建物	病床数	53床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 151.5 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	14床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 53 m ² [共用室の場合] 共用する室名 病棟業務課					
化学検査室	405.3m ²	〃	(主な設備) AU5800, XE-2100, アーキテクト, Eモジュール, CS-5100			
細菌検査室	112.9m ²	〃	(主な設備) 安全キャビネット, バクテアラート3D, BDフェニックス, ライトサイクラー			
病理検査室	299.9m ²	〃	(主な設備) カセット印字機, スライド印字機, パラフィン液透機, 免疫染色機			
病理解剖室	118.9m ²	〃	(主な設備) パラフィン液透機, 包埋センター, ドラフトチャンバー			
研究室	8193.84m ²	〃	(主な設備) 顕微鏡, 冷却遠心機, CO2インキュベーター			
講義室	363.40m ²	〃	室数 2室		収容定員 210人	
図書室	1135.16m ²	〃	室数 1室		蔵書数 52,000冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	77.0%	逆紹介率	64.1%
算出根拠	A: 紹介患者の数		21,592人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		18,866人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,084人
	D: 初診の患者の数		29,418人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤本 良和	枚方市医師会 会長	○	地域医療に関する学識経験者	有・ 無	1
森田 眞照	市立枚方病院 病院長		病院機能に関する学識経験者	有・ 無	1
永井 仁美	大阪府健康医療 部保険医療室 副理事		公衆衛生に関する学識経験者	有・ 無	1
吉野 敬昌	枚方市信用金庫 理事長		医療を受ける側の代表者	有・ 無	2
谷川 昇	関西医科大学医学部 放射線科学 講座教授		医療に関する学識経験者	有 ・無	1
宮良 高維	関西医科大学 医学部 内科学第一講座 診療教授		医療・感染に関する学識経験者	有 ・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 本学ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	10人
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
放射線照射前に大量メトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	1人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法	0人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	0人
膀胱癌腹膜転移に対するS-1+パクリタキセル経静脈腹腔内投与併用療法	0人
テモゾロミド用量強化療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	8	56	ベーチェット病	100
2	筋萎縮性側索硬化症	35	57	特発性拡張型心筋症	76
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	80
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	44	60	再生不良性貧血	42
6	パーキンソン病	491	61	自己免疫性溶血性貧血	28
7	大脳皮質基底核変性症	14	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	298
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	7	65	原発性免疫不全症候群	29
11	重症筋無力症	159	66	IgA腎症	145
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	57
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	72	68	黄色靱帯骨化症	21
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	36	69	後縦靱帯骨化症	89
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	7
16	クロウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	111
17	多系統萎縮症	48	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	83	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	3	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	3	75	クッシング病	3
21	ミトコンドリア病	7	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	37	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	5
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	35	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	21	83	アジソン病	4
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	254
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	65
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	32
32	自己食空腔性ミオパチー	1	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	7
34	神経線維腫症	58	89	リンパ管筋腫症	2
35	天疱瘡	34	90	網膜色素変性症	127
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	3	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	8	93	原発性胆汁性肝硬変	155
39	中毒性表皮壊死症	2	94	原発性硬化性胆管炎	13
40	高安動脈炎	3	95	自己免疫性肝炎	117
41	巨細胞性動脈炎	6	96	クローン病	147
42	結節性多発動脈炎	0	97	潰瘍性大腸炎	277
43	顕微鏡的多発血管炎	30	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	10	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	27	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	16	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	46	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	103	GFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	346	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	156	105	チャーシ症候群	0
51	全身性強皮症	186	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	51	107	全身型若年性特発性関節炎	6
53	シェーグレン症候群	352	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	18	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	9	110	ブラウ症候群	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	7	161	家族性良性慢性天疱瘡	4
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
113	筋ジストロフィー	15	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	13	167	マルファン症候群	4
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウイルスン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	2	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	1
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	3
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	4
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	1	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	1	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮膚異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	2
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	1
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	4
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	1
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	3
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	3	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	2	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	4	208	修正大血管転位症	2
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	3
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	13

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	3	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	35	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	9	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	3	265	脂肪萎縮症	1
218	アルポート症候群	2	266	家族性地中海熱	4
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	42	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	4
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	18
224	紫斑病性腎炎	26	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	2	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	1
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	23	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	2	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	18
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	1
246	メチルマロン酸血症	1	294	先天性横隔膜ヘルニア	5
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	10
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	68
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	24
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシルラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	155

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナパン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	1
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシニン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	1
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科外来診療環境体制加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体胎児・新生児)
・特定機能病院入院基本料(7対1)	・新生児治療回復室入院医療管理料
・超急性期脳卒中加算	・小児入院医療管理料2
・診療録管理体制加算2	・
・医師事務作業補助体制加算1(15対1)	・
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・
・看護職員夜間配置加算(12対1 配置加算1)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1・2	・
・緩和ケア診療加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・総合評価加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・データ提出加算2	・
・退院支援加算1・3	・
・精神科疾患診療体制加算2	・
・救命救急入院料1・4	・
・特定集中治療室管理料4	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・糖尿病合併症管理料	・脳波検査判断料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・神経学的検査
・がん患者指導管理料1・2	・補聴器適合検査
・外来緩和ケア管理料	・ロービジョン検査判断料
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・コンタクトレンズ検査料1
・糖尿病透析予防指導管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・外来放射線照射診療料	・内服・点滴誘発試験
・ニコチン依存症管理料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・がん治療連携計画策定料	・画像診断管理加算2
・排尿自立指導料	・ポジトロン断層撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・薬剤管理指導料	・CT撮影及びMRI撮影
・地域連携診療計画加算	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料1・2	・外傷全身CT加算
・歯科治療総合医療管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)	・心臓MRI撮影加算
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料	・乳房MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・外来化学療法加算1
・検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅳ)	・無菌製剤処理料
・国際標準検査管理加算	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・遺伝カウンセリング加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・胎児心エコー法	・がん患者リハビリテーション料
・ヘッドアップティルト試験	・歯科口腔リハビリテーション料2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・認知療法・認知行動療法2	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・硬膜外自家血注入	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・エタノール局所注入(甲状腺)	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・透析液水質確保加算2	・体外衝撃波胆石破碎術
・CAD/CAM冠	・腹腔鏡下肝切除術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・生体部分肝移植術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・体外衝撃波脾石破碎術
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)&及び脳刺激装置交換術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・同種死体腎移植術
・網膜再建術	・生体腎移植術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・膀胱水圧拡張術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・腹腔鏡下仙骨隆固定術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・医科点数表第2章第10部手術の通則12に掲げる手術の休日加算1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医科点数表第2章第10部手術の通則12に掲げる手術の時間外加算1	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則12に掲げる手術の深夜加算1	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術	・
・輸血管理料 I	・
・輸血適正使用加算	・
・自己生体組織接着剤作成術	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・麻酔管理料(I)(II)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・病理診断管理加算2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・人工尿道括約筋植込・置換術	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床検査部:年間42回 病理部:月4~5回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 16 例 / 剖検率 2.6 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
多層計測と非線形柔軟物モデルの協調による実時間臓器追跡に関する研究	松田 公志	腎泌尿器外科学	520,000	補委 日本学術振興会 科研費
多層計測と非線形柔軟物モデルの協調による実時間臓器追跡に関する研究	吉田 健志	腎泌尿器外科学	520,000	補委 日本学術振興会 科研費
GPUの深度画像並列処理機能による肝臓手術ナビゲーションシステムの製作とその評価	権 雅憲	外科学	130,000	補委 日本学術振興会 科研費
GPUの深度画像並列処理機能による肝臓手術ナビゲーションシステムの製作とその評価	海堀 昌樹	外科学	130,000	補委 日本学術振興会 科研費
腎肺クロストークを介した人工呼吸器誘発性腎障害のメカニズム解明	中嶋 康文	麻酔科学	475,000	補委 日本学術振興会 科研費
信頼関係構築に向けたプライマリ・ケア診療の会話分析的研究	阿部 哲也	心療内科学	104,000	補委 日本学術振興会 科研費
新しい核酸医薬で敗血症を治療するための分子基盤の構築	海堀 昌樹	外科学	390,000	補委 日本学術振興会 科研費
microRNAによる急性腎障害発症機序の解明と、早期診断バイオマーカーへの応用	中嶋 康文	麻酔科学	559,000	補委 日本学術振興会 科研費
周術期抗血小板薬薬効モニタリングのための血小板由来microRNA発現解析の検討	中嶋 康文	麻酔科学	455,000	補委 日本学術振興会 科研費
糖尿病性皮膚潰瘍の発生予防-皮膚バリア機能破綻機序の解明と新規治療法の開発	森本 尚樹	形成外科学	117,000	補委 日本学術振興会 科研費
急性腎障害に関与するmiRNA-ceRNAクロストークとバイオマーカーへの応用	中嶋 康文	麻酔科学	1,170,000	補委 日本学術振興会 科研費
ヒト癌幹細胞に対するIFN- α 賦活BID遺伝子/放射線集学的治療の検討	岩田 亮一	脳神経外科学	390,000	補委 日本学術振興会 科研費

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
単一ドメイン抗体によるグラム陰性菌Ⅲ型病原毒性の抑制探索	中嶋 康文	麻酔科学	39,000	補 委	日本学術振興会 科研費
大量ナノバブルにより増強したキャビテーション効果の医療利用:血栓溶解効果での評価	狩谷 秀治	放射線科学	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科研費
質量分析イムノアッセイを用いた内因性ジギタリス産生分泌機序と高血圧発症機序の解明	吉賀 正亨	病態検査学	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科研費
長期・連続・自動生体情報記録による疾患別遠隔予防・治療システムの臨床効果の研究	木村 稯	健康科学	390,000	補 委	日本学術振興会 科研費
自己免疫性膵炎の病態形成における自然免疫系異常に関する研究	岡崎 和一	内科学第三	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科研費
心エコー指標による心房細動患者の心血管イベント発症と予後予測に関する検討	宮坂 陽子	内科学第二	650,000	補 委	日本学術振興会 科研費
ゲノム情報に基づく腎尿細管間質性障害の新しい系統的診断フローの構築	塚口 裕康	内科学第二	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科研費
ヒト癌幹細胞に対するIFN- α 賦活BID遺伝子/放射線集学的治療の検討	津野 隆哉	放射線科学	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科研費
ヒト子宮内膜における転写因子Hand2の機能解析とその臨床的意義	岡田 英孝	産科学・婦人科学	1,560,000	補 委	日本学術振興会 科研費
人工心肺手術周術期の血小板由来microRNAによる炎症惹起作用機序の解明	中嶋 康文	麻酔科学	1,040,000	補 委	日本学術振興会 科研費
Tリンパ球由来マイクロパーティクルによる呼吸器関連アレルギー疾患の新規病態評価法	野村 昌作	内科学第一	1,820,000	補 委	日本学術振興会 科研費
1型自己免疫性膵炎における好塩基球を介した自然免疫反応の役割	内田 一茂	内科学第三	1,560,000	補 委	日本学術振興会 科研費

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
CT透視の術者被曝を低減するシールドの臨床評価	中谷 幸	放射線科学	1,040,000	補委	日本学術振興会 科研費
癌根治手術のための光プローブを用いた迅速定量病理診断法の開発	海堀 昌樹	外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
インドシアニングリーン・ラクトソームを用いたがん診断・治療技術の開発	松井 康輔	外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
根治不能肝腫瘍に対する増殖型遺伝子組換えウイルスを用いた新治療法の臨床応用研究	権 雅憲	外科学	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
グリオーマ癌幹細胞を標的とした樹状細胞療法の開発に関する基礎研究	浅井 昭雄	脳神経外科学	1,950,000	補委	日本学術振興会 科研費
One airway, one diseaseの機序解明と新しい治療戦略	神田 晃	鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
無細胞多血小板血漿の検証と実験的検討	楠本 健司	形成外科学	1,820,000	補委	日本学術振興会 科研費
好酸球性気道炎症の治療ターゲットとしてのステロイド受容体の局在と機能の解析	小林 良樹	鼻咽喉科・頭頸部外科	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費
Smad2/3リンカー一部リン酸化に着目した癌幹細胞・癌の発生・進展に関する検討	福井 寿朗	内科学第三	1,820,000	補委	日本学術振興会 科研費
顆粒球単球コロニー刺激因子の免疫抑制作用を利用した慢性GVHD制御法の開発	佐竹 敦志	内科学第一	1,820,000	補委	日本学術振興会 科研費
ビタミンAとDの免疫作用を利用した微小変化型ネフローゼ症候群の画期的治療の検討	金子 一成	小児科学	1,820,000	補委	日本学術振興会 科研費
副腎皮質再生メカニズムの解明と自家移植への応用	吉田 崇	腎泌尿器外科学	1,690,000	補委	日本学術振興会 科研費

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
肺癌前転移ニッチ関連バイオマーカーの特定と先制医療への展開	齊藤 朋人	胸部心臓血管外科学	2,470,000	補 委	日本学術振興会 科研費
低酸素誘導性因子1機能調節解析を基軸としたタバコ誘導性肺・気道炎症機構の検討	西 憲一郎	麻酔科学	2,340,000	補 委	日本学術振興会 科研費
泌尿器内視鏡手術における Ergonomic analysis	松田 公志	腎泌尿器外科学	2,860,000	補 委	日本学術振興会 科研費
細胞性免疫操作による老人性難聴予防	岩井 大	鼻咽喉科・頭頸部外科	1,170,000	補 委	日本学術振興会 科研費
放射線性顎骨壊死の病態と発症リスク因子の解明に関する多施設共同研究	兒島 由佳	鼻咽喉科・頭頸部外科	1,820,000	補 委	日本学術振興会 科研費
経皮的管腔臓器バイパス術の臨床導入:乳糜胸水に対する胸管一下大静脈バイパス術	吉田 理絵	放射線科学	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科研費
脂肪幹細胞と低酸素プレコンディショニング法を用いた血管・皮膚再生療法の開発	覚道 奈津子	形成外科学	910,000	補 委	日本学術振興会 科研費
大量ナノバブルにより増強したキャビテーション効果を利用したソノポレーションの評価	上野 裕	放射線科学	910,000	補 委	日本学術振興会 科研費
B7 familyを標的にした膠芽腫の癌幹細胞に対する新規治療法の開発	岩田 亮一	脳神経外科学	1,560,000	補 委	日本学術振興会 科研費
代謝モード解析を基軸とした麻酔薬が膵β細胞のインスリン分泌へ与える影響の研究	鈴木 堅悟	麻酔科学	1,560,000	補 委	日本学術振興会 科研費
血管新生と低酸素誘導因子HIF-1に着目した子宮内膜症の新規治療戦略	都築 朋子	産科学・婦人科学	910,000	補 委	日本学術振興会 科研費
慢性歯周炎の歯槽骨吸収におけるIL-1βとCX3CR1/FKNの役割	澤田 俊輔	鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科研費

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
進行肝細胞癌に対する分子標的治療の効果を予測する新規バイオマーカーの探求	山口 隆志	内科学第三	910,000	補委	日本学術振興会 科研費
自己免疫性膵炎における疾患エクソソームの解析	富山 尚	内科学第三	1,820,000	補委	日本学術振興会 科研費
胎児期のカルシウム不足は、仔の成獣期に高血圧や慢性腎疾患を引き起こすのか？	山内 壮作	小児科学	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
硫化水素代謝が低酸素環境下で細胞の代謝リプログラミングに与える影響の研究	甲斐 慎一	麻酔科学	2,340,000	補委	日本学術振興会 科研費
内視鏡下手術操作における技術分析と新規教育方法の開発	吉田 健志	腎泌尿器外科学	2,600,000	補委	日本学術振興会 科研費
新規がん組織培養法を用いた麻酔薬のがん組織表現型と遺伝子型への影響の検討	岩井 鉄平	麻酔科学	1,300,000	補委	日本学術振興会 科研費
インジェクタブル人工脂肪の開発	森本 尚樹	形成外科学	1,170,000	補委	日本学術振興会 科研費
補体沈着による赤血球の機能低下が重症病態に与える影響についての研究	室谷 卓	救急医学	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
医療面接におけるコミュニケーション技法の客観的評価指針の開発	阿部 哲也	心療内科学	1,560,000	補委	日本学術振興会 科研費
細胞成長因子保持型人工真皮を用いた細胞治療および細胞誘導治療	森本 尚樹	形成外科学	2,730,000	補委	日本学術振興会 科研費
Insulin/IGFの協調作用を介した心機能調節機構の解明	塩島 一郎	内科学第二	4,810,000	補委	日本学術振興会 科研費
IgG4関連疾患の診断基準並びに治療指針の確立を目指した研究	岡崎 和一	内科学第三	2,800,000	補委	厚生労働省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	岡崎 和一	内科学第三	500,000	補 委	厚生労働省
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患の移行期を包含し診療の質の向上に関する研究	濱田 吉則	外科学	100,000	補 委	厚生労働省
自己炎症性疾患とその類縁疾患の診断基準・重症度分類、診療ガイドラインの確立に関する研究	神戸 直智	皮膚科学	700,000	補 委	厚生労働省
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	高橋 寛二	眼科学	100,000	補 委	厚生労働省
先天性巨大色素性母斑を母地とした悪性黒色腫に対する予防的低侵襲治療方法の開発	森本 尚樹	形成外科学	45,499,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
未治療原発不明癌に対する次世代シーケンスを用いた原発巣推定に基づく治療効果の意義を問う第二相試験	倉田 宝保	内科学第一	650,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
局所進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するシスプラチン+S-1同時胸部放射線治療とシスプラチン+ペメトレキセド同時胸部放射線治療の無作為化第II相試験	倉田 宝保	内科学第一	900,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
EGFR遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するゲフィチニブ単剤治療とゲフィチニブにシスプラチン+ペメトレキセドを途中挿入する治療とのランダム化比較試験(JCOG1404/WJOG8214L:AGAIN)	倉田 宝保	内科学第一	585,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
インターロイキン2の免疫抑制作用を活用する新しい免疫制御療法の開発	佐竹 敦志	内科学第一	300,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
IgG4関連疾患の病因病態解明と新規治療法確立に関する研究	岡崎 和一	内科学第三	1,200,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃癌に対する術前trastuzumab併用化学療法の意味に関する臨床試験	井上 健太郎	外科学	1,040,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
がん治療中のせん妄の発症予防を目指した多職種せん妄プログラムの開発	海堀 昌樹	外科学	4,810,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
革新的抗がんウイルス療法の実用化臨床研究	海堀 昌樹	外科学	1,500,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
新規治療法の開発と臨床試験の実施	海堀 昌樹	外科学	8,667,894	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究	海堀 昌樹	外科学	1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
未来医療を実現する先端医療機器・システムの開発/先端医療機器の開発/麻痺した運動や知覚の機能を回復する医療機器・システムの研究開発	長谷 公隆	整形外科学・リハビリ科	14,300,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
自己炎症性疾患の治療標的分子同定および薬剤開発基盤整備	神戸 直智	皮膚科学	1,040,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
内視鏡外科手術における熟練技術追体験システムを使用したトレーニングシステムの評価	松田 公志	腎泌尿器外科学	1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
鼻茸マウスモデルの作成	神田 晃	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	650,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
最新のIVRによる症状緩和についての研究	谷川 昇	放射線科学	1,000,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療の確立と標準化のための臨床研究	中村 聡明	放射線科学	500,000	補 委	日本医療研究開発機構(AMED)
脳機能補完による高齢者・障がい者の機能回復支援技術の研究開発 副題:外骨格ロボットと脳機能ニューロフィードバックによる身体および認知・感覚運動機能のICTを活用したリハビリテーションシステムの開発	長谷 公隆	整形外科学・リハビリ科	9,999,999	補 委	情報通信研究機構(NICT)
鏡視下手術死亡の検討と対策	梅垣 岳志	麻酔科学	1,000,000	補 委	公益財団法人 三井生命厚生財団 第49回医学研究助成
川崎病の発症リスクとしての腸内細菌叢の異常の関与	堀 真一郎	小児科学	500,000	補 委	公益財団法人 森永奉仕会 平成27年度研究奨励金

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
副腎皮質自家移植片リモデリングにかかるシグナル経路の解明	滝澤 奈恵	腎泌尿器外科学	1,000,000	補 委 公益財団法人 山口内分泌疾患研 究振興財団 平成28年度研究助 成金
ヒト肝細胞がんに対する増殖型遺伝子組換えウイルスを用いた新治療法の開発研究	海堀 昌樹	外科学	644,000	補 委 東京大学医科学研 究所 平成29年度共同研 究
妊娠成立に向けたヒト子宮内膜機能に及ぼす喫煙の影響	岡田 英孝	産科学・産婦人科学	2,000,000	補 委 公益財団法人 喫煙科学研究財団 平成29年度研究助 成
治癒切除不能な進行・再発胃癌症例におけるHER2の検討-観察研究-(JFMC-1101)	井上 健太郎	外科学	10,000	補 委 公益財団法人 がん集学的治療研 究財団 第37回一般研究助 成金
ヒト心筋細胞及び心筋前駆細胞の甲状腺ホルモ代謝に及ぼすニコチンの影響に関する検討	豊田 長興	内科学第二	2,000,000	補 委 公益財団法人 喫煙科学研究財団 平成28年度研究助 成
冠動脈疾患患者に対するピタバスタチンによる積極的脂質低下療法または通常脂質低下療法のランダム化比較試験(REAL-CAD)	神島 宏	内科学第二	260,000	補 委 公益財団法人 パブリックヘルスリ サーチセンター
微小変化型ネフローゼ症候群におけるエンドセリン受容体拮抗薬の抗タンパク尿効果の検討	駿田 竹柴	小児科学	500,000	補 委 公益財団法人 大阪腎臓バンク 平成28年度腎疾患 研究助成
工学的手法を用いた熟練術者の快適な手術体位の分析と新規の初心者教育法の開発	吉田 健志	腎泌尿器外科学	2,844,750	補 委 Intuitive Surgical,Inc
ブラウ症候群の国際レジストリー	神戸 直智	皮膚科学	271,555	補 委 ルーヴェン・カトリック 大学

合計 93

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」と記入の上で補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Nakaya A	血液呼吸器膠原病感染症内科	Retrospective analysis of bevacizumab-induced hypertension and clinical outcome in patients with colorectal cancer and lung cancer.	Cancer medicine 5(7):1381-1387	Original Article
2	Nomura S	血液呼吸器膠原病感染症内科	Advances in Diagnosis and Treatments for Immune Thrombocytopenia	Clinical medicine insights, Blood disorders 9:15-22	Review
3	Nomura S	血液呼吸器膠原病感染症内科	Induction and maintenance of Th2 immune responses by T-lymphocyte-derived microparticle.	Current Trends in Immunology 17:43-53	Others
4	Tsubokura Y	血液呼吸器膠原病感染症内科	Successful treatment with mogamulizumab followed by allogeneic hematopoietic stem-cell transplantation in adult T-cell leukemia/lymphoma: a report of two cases.	International journal of hematology 104(6):744-748	Case report
5	Nomura S	血液呼吸器膠原病感染症内科	Microparticle and Atherothrombotic Diseases.	Journal of atherosclerosis and thrombosis 23(1):1-9	Review
6	Nakaya A	血液呼吸器膠原病感染症内科	Delayed HBV reactivation in rituximab-containing chemotherapy: How long should we continue anti-virus prophylaxis or monitoring HBV-DNA?	Leukemia research 50:46-49	Original Article
7	Nakaya A	血液呼吸器膠原病感染症内科	Enhanced international prognostic index in Japanese patients with diffuse large B-cell lymphoma.	Leukemia research reports 6:24-26	Case report
8	Azuma Y	血液呼吸器膠原病感染症内科	Disseminated intravascular coagulation observed following treatment with gemtuzumab ozogamicin for relapsed/refractory acute promyelocytic leukemia.	Molecular and clinical oncology 5(1):31-34	Case report
9	Nakaya A	血液呼吸器膠原病感染症内科	Impact of CRAB Symptoms in Survival of Patients with Symptomatic Myeloma in Novel Agent Era.	Hematology reports 9(1):6887	Original Article
10	Yoshimura H	血液呼吸器膠原病感染症内科	Evaluation of a biosimilar granulocyte colony-stimulating factor (filgrastim XM02) for peripheral blood stem cell mobilization and transplantation: a single center experience in Japan.	Journal of blood medicine 8:5-12	Original Article
11	Murakawa K	循環器腎内分泌代謝内科	Previous Statin Therapy Improves Clinical Outcome of Patients with ST-Segment Elevation Myocardial Infarction Undergoing Primary Percutaneous Coronary Intervention	Cardiovascular Pharmacology 5(4):187	Original Article
12	Yanishi M	循環器腎内分泌代謝内科	Short-term outcome and quality of life in kidney transplant recipient with monoclonal gammopathy	Clinical and experimental nephrology 5(2):168-172	Case report
13	Maeba H	循環器腎内分泌代謝内科	Thrombectomy and Catheter-Directed Thrombolysis Combined With Antithrombin Concentrate for Treatment of Antithrombin Deficiency Complicated by Acute Deep Vein Thrombosis That Is Refractory to Anticoagulation.	International heart journal 57(5):649-653	Review

小計
13

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を
定 附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算
定
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article, Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別
14	Murakawa K	循環器腎内分泌代謝内科	Traumatic ventricular septal rupture associated with rapid progression of heart failure despite low Qp/Qs ratio: a case report.	Journal of cardiothoracic surgery 11(1):Article No. 57	Case report
15	Yanishi M	循環器腎内分泌代謝内科	Correlation of whole kidney hypertrophy with glomerular over-filtration in live, gender-mismatched renal transplant allografts.	Nephrology 22(12):1002-1007	Original Article
16	Yanishi M	循環器腎内分泌代謝内科	Evaluation of physical activity in sarcopenic conditions of kidney transplantation recipients.	International urology and nephrology 49(10):1779-1784	Original Article
17	Fujikawa Y	循環器腎内分泌代謝内科	Latent TGF- β binding protein 2 and 4 have essential overlapping functions in microfibril development.	Scientific Reports 7:43714	Original Article
18	Yanishi M	循環器腎内分泌代謝内科	Factors Associated With the Development of Sarcopenia in Kidney Transplant Recipients.	Transplantation proceedings 49(2):288-292	Original Article
19	Shimatani M	消化器肝臓内科	Diagnostic and Therapeutic Endoscopic Retrograde Cholangiography Using a Short-Type Double-Balloon Endoscope in Patients With Altered Gastrointestinal Anatomy: A Multicenter Prospective Study in Japan.	The American journal of gastroenterology 111(12):1750-1758	Original Article
20	Shimatani M	消化器肝臓内科	Through-the-scope self-expanding metal stent placement using newly developed short double-balloon endoscope for the effective management of malignant afferent-loop obstruction.	Endoscopy 48(S01):E6-E7	Case report
21	Ando Y	消化器肝臓内科	Downregulation of MicroRNA-21 in Colonic CD3+ T Cells in UC Remission.	Inflammatory bowel diseases 22(12):2788-2793	Original Article
22	Ikeura T	消化器肝臓内科	IgG4-related Disease Involving Multiple Organs with Elevated Serum Interleukin-6 Levels.	Internal medicine 55(18):2623-2628	Case report
23	Yamaguchi T	消化器肝臓内科	Reversible or irreversible phospho-Smad3 signaling between tumor-suppression and fibro-carcinogenesis in hepatitis B and C virus-related chronic liver diseases	Journal of gastroenterology and hepatology 31(suppl3):364	Others
24	Takaoka M	消化器肝臓内科	Usefulness of a half-covered metallic stent for the distal bile duct stricture due to pancreatic cancer	Journal of gastroenterology and hepatology 31(suppl3):342	Others
25	Tokuhara M	消化器肝臓内科	Evaluation of adverse events after ERCP using a short type double balloon endoscope	Journal of gastroenterology and hepatology 31(suppl3):327	Others
26	Kato K	消化器肝臓内科	The clinical and radiological preoperative findings of resected serous cystic neoplasms	Journal of gastroenterology and hepatology 31(suppl3):263	Others

小計
13

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を
 附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算
 定

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
 (出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
 記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別
27	Ikeura T	消化器肝臓内科	Utility of prognostic factor score in Japanese severity criteria for acute pancreatitis: Comparison with the Atlanta classification and the APACHE II score	Journal of gastroenterology and hepatology 31(suppl3):250	Others
28	Yamaguchi T	消化器肝臓内科	S-1 monotherapy in a patient with cholangiolocellular carcinoma: A case report	Molecular and clinical oncology 5(6):762-766	Case report
29	Tanaka T	消化器肝臓内科	Bmi1-positive cells in the lingual epithelium could serve as cancer stem cells in tongue cancer.	Scientific reports 6:Article No. 39386	Original Article
30	Uchida K	消化器肝臓内科	The Geoeidemiology and Clinical Aspects of IgG4-Related Disease.	Seminars in liver disease 36(3):187-199	Review
31	Ikeura T	消化器肝臓内科	Long-term outcomes of autoimmune pancreatitis.	World journal of gastroenterology 22(34):7760-7766	Review
32	Tomiyama T	消化器肝臓内科	The modulation of co-stimulatory molecules by circulating exosomes in primary biliary cirrhosis.	Cellular & molecular immunology 14(3):276-284	Original Article
33	Okazaki K	消化器肝臓内科	IgG4-Related Disease Preface	Current topics in microbiology and immunology 401:V	Others
34	Uchida K	消化器肝臓内科	Roles of Regulatory T and B Cells in IgG4-Related Disease.	Current topics in microbiology and immunology 401:93-114	Original Article
35	Okazaki K	消化器肝臓内科	Current Concept of IgG4-Related Disease.	Current topics in microbiology and immunology 401:1-17	Original Article
36	Shimatani M	消化器肝臓内科	Utility of endoscopic therapy using a double balloon endoscope combined with a long-type ultra-slim endoscope in postoperative patient allergic to contrast media (with video).	Digestive endoscopy 29(1):124-125	Others
37	Tanaka T	消化器肝臓内科	Autoreactive Monoclonal Antibodies from Patients with Primary Biliary Cholangitis Recognize Environmental Xenobiotics.	Hepatology 66(3):885-895	Original Article
38	Suzuki K	消化器肝臓内科	Phase 1 Clinical Study of siRNA Targeting Carbohydrate Sulphotransferase 15 in Crohn's Disease Patients with Active Mucosal Lesions.	Journal of Crohn's & colitis 11(2):221-228	Original Article
39	Okazaki K	消化器肝臓内科	International consensus for the treatment of autoimmune pancreatitis.	Pancreatology 17(1):1-6	Original Article

小計
13

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を
 附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別
40	Kanbara K	心療内科	Links among emotional awareness, somatic awareness and autonomic homeostatic processing	BioPsychoSocial medicine 10(16):1-11	Review
41	Hasuo H	心療内科	Self-controllable prodromal symptoms of syncope attributed to carotid sinus syndrome during the end stage of cancer: a case report.	BioPsychoSocial medicine 10(1):27	Others
42	Hasuo H	心療内科	Myofacial trigger points in advanced cancer patients.	Indian journal of palliative care 22(1):80-84	Original Article
43	Kato F	心療内科	Pain threshold reflects psychological traits in patients with chronic pain: a cross-sectional study.	BioPsychoSocial medicine 11:13 (オンライン)	Original Article
44	Hasuo H	心療内科	Tolerable pain reduces gastric fundal accommodation and gastric motility in healthy subjects: a crossover ultrasonographic study.	BioPsychoSocial medicine 11:4 (オンライン)	Original Article
45	Tsuge A	神経内科	Weight loss in the early stage of progressive supranuclear palsy.	Brain and behavior 7(2):e00616	Original Article
46	Iida S	神経内科	Rapidly progressive psychotic symptoms triggered by infection in a patient with methylenetetrahydrofolate reductase deficiency: a case report.	BMC neurology 17(1):47	Case report
47	Nakamura M	神経内科	Natalizumab is Effective for the Treatment of Relapsing-remitting Tumefactive Multiple Sclerosis.	Internal medicine 56(2):211-214	Original Article
48	Morise S	神経内科	Thymoma-associated Progressive Encephalomyelitis with Rigidity and Myoclonus (PERM) with Myasthenia Gravis.	Internal medicine 56(13):1733-1737	Case report
49	Oki M	神経内科	Zonisamide ameliorates levodopa-induced dyskinesia and reduces expression of striatal genes in Parkinson model rats.	Neuroscience research 122:45-50	Original Article
50	Kaibori M	外科	Intraoperative Detection of Superficial Liver Tumors by Fluorescence Imaging Using Indocyanine Green and 5-aminolevulinic Acid.	Anticancer research 36(4):1841-1849	Original Article
51	Kaibori M	外科	Evaluation of fluorescence imaging with indocyanine green in hepatocellular carcinoma.	Cancer imaging 16(1):Article No. 6	Original Article
52	Nakatake R	外科	Genipin inhibits the induction of inducible nitric oxide synthase through the inhibition of NF- κ B activation in rat hepatocytes.	Drug metabolism letters 10(4):254-263	Original Article

小計
13

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を
定 附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、または et al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)
記載例: Lancet, 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet, 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別
53	Miki H	外科	Japanese Kampo Saireito Has a Liver-protective Effect Through the Inhibition of Inducible Nitric Oxide Synthase Induction in Primary Cultured Rat Hepatocytes	JPEN. Journal of parenteral and enteral nutrition 40(7):1033-1041	Original Article
54	Kaibori M	外科	Questionnaire survey on work motivations of gastrointestinal and hepatobiliary pancreatic surgeons enrolled in a Japanese national interdisciplinary program.	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences 23(11):697-702	Original Article
55	Kaibori M	外科	Increased FGF19 copy number is frequently detected in hepatocellular carcinoma with a complete response after sorafenib treatment.	Oncotarget 7(31):49091-49098	Original Article
56	Satoi S	外科	Reappraisal of total pancreatectomy in 45 patients with pancreatic ductal adenocarcinoma in the modern era using matched-pairs analysis: multicenter study group of pancreatobiliary surgery in Japan.	Pancreas 45(7):1003-1009	Original Article
57	Matsui Y	外科	Safety of laparoscopic cholecystectomy after coronary artery bypass with the right gastroepiploic artery.	Surgery 160(1):252-254	Others
58	Inoue K	外科	Staple-Line Reinforcement of the Duodenal Stump With Intracorporeal Lembert's Sutures in Laparoscopic Distal Gastrectomy With Roux-en-Y Reconstruction for Gastric Cancer.	Surgical laparoscopy, endoscopy & percutaneous techniques 26(4):338-342	Original Article
59	Tokuhara K	外科	Outcomes of neoadjuvant chemoradiotherapy in Japanese locally advanced rectal carcinoma patients.	World journal of surgical oncology 14(1):Article No. 136	Original Article
60	Iida H	外科	Single-Center Experience with Subvesical Bile Ducts(Ducts of Luschka)	The American surgeon 83(2):e43-45	Others
61	Satoi S	外科	Multicenter phase II study of intravenous and intraperitoneal paclitaxel with S-1 for pancreatic ductal adenocarcinoma patients with peritoneal metastasis.	Annals of surgery 265(2):397-401	Original Article
62	Yamamoto D	外科	Efficacy and safety of low-dose capecitabine plus docetaxel versus single-agent docetaxel in patients with anthracycline-pretreated HER2-negative metastatic breast cancer: results from the randomized phase III JO21095 trial.	Breast cancer research and treatment 161(3):473-482	Original Article
63	Yamaki S	外科	PD-L1 expression in pancreatic ductal adenocarcinoma is a poor prognostic factor in patients with high CD8+ tumor-infiltrating lymphocytes: highly sensitive detection using phosphor-integrated dot staining.	International journal of clinical oncology 22(4):726-733	Original Article
64	Sugie T	外科	Sentinel lymph node biopsy using indocyanine green fluorescence in early-stage breast cancer: a meta-analysis.	International journal of clinical oncology 22(1):11-17	Original Article
65	Tokuhara K	外科	A first reported case of metastatic anorectal amelanotic melanoma with a marked response to anti-PD-1 antibody nivolumab: A case report.	International journal of surgery case reports 31:188-192	Original Article

小計
13

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を
定 附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet alとする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article, Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別
66	Hamada Y	外科	Duodenogastric regurgitation in hepaticoduodenostomy after excision of congenital biliary dilatation (choledochal cyst).	Journal of pediatric surgery 52(10):1621-1624	Original Article
67	Yamamoto D	外科	Osteonecrosis of the jaw associated with everolimus: A case report.	Molecular and clinical oncology 6(2):255-257	Original Article
68	Iida H	外科	Assessing the feasibility of clinicopathological features of hepatic resection for hepatocellular carcinoma in patients over 80 years of age.	Molecular and clinical oncology 6(1):29-38	Others
69	Yanai H	外科	Intestinal cancer stem cells marked by Bmi1 or Lgr5 expression contribute to tumor propagation via clonal expansion.	Scientific reports 8(7):Article No. 41838	Original Article
70	Matsui Y	外科	Commentary on: Prevention of postoperative bile leakage using an omental plugging technique for subtotal cholecystectomy in the "difficult gallbladder".	Surgery 161(2):565-566	Others
71	Satoi S	外科	Clinical outcomes of pancreatic ductal adenocarcinoma resection following neoadjuvant chemoradiation therapy vs. chemotherapy.	Surgery today 47(1):84-91	Original Article
72	Kaibori M	外科	Effects of implementing an "enhanced recovery after surgery" program on patients undergoing resection of hepatocellular carcinoma.	Surgery today 47(1):42-51	Others
73	Morimoto N	形成外科	The Alteration of the Epidermal Basement Membrane Complex of Human Nevus Tissue and Keratinocyte Attachment after High Hydrostatic Pressurization.	BioMed research international 2016:1320909 (オンライン)	Original Article
74	Morimoto N	形成外科	Verification of the Inactivation of Melanocytic Nevus in vitro Using a Newly Developed Portable High Hydrostatic Pressure Device.	Cells, tissues, organs 201(3):170-179	Original Article
75	Hikiami R	形成外科	Coccygeal Pad With an Anterior Flexed Coccyx: A Case Report.	Eplasty (オンライン)	Case report
76	Morimoto N	形成外科	Easy-to-Use Preservation and Application of Platelet-Rich Plasma in Combination Wound Therapy With a Gelatin Sheet and Freeze-Dried Platelet-Rich Plasma: A Case Report.	Eplasty (オンライン)	Original Article
77	Morimoto N	形成外科	An Exploratory Clinical Trial of a Novel Treatment for Giant Congenital Melanocytic Nevi Combining Inactivated Autologous Nevus Tissue by High Hydrostatic Pressure and a Cultured Epidermal Autograft: Study Protocol.	JMIR research protocols 5(3):e162	Original Article
78	Morimoto N	形成外科	The superiority of the autografts inactivated by high hydrostatic pressure to decellularized allografts in a porcine model.	Journal of biomedical materials research. Part B, Applied biomaterials 105(8):2653-2661	Original Article

小計
13

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を
附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算
定

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、または et al. とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別
79	Morimoto N	形成外科	An evaluation of the engraftment and the blood flow of porcine skin autografts inactivated by high hydrostatic pressure.	Journal of biomedical materials research. Part B, Applied biomaterials 105(5):1091-1101	Original Article
80	Kushida S	形成外科	A Modified LeClerc Procedure with Oblique Osteotomy and V-shaped Notch for Habitual Dislocation of the Temporomandibular Joint.	Journal of maxillofacial and oral surgery 15(3):408-409	Original Article
81	Kakudo N	形成外科	Angiogenic effect of platelet-rich plasma combined with gelatin hydrogel granules injected into murine subcutis.	Journal of tissue engineering and regenerative medicine 11(7):1941-1948	Original Article
82	Kakudo N	形成外科	Elastofibroma dorsi: a case report with an immunohistochemical and ultrastructural studies.	Medical molecular morphology 49(1):42-47	Original Article
83	Taniguchi H	腎泌尿器外科	Elucidation of the mechanism of suppressed steroidogenesis during androgen deprivation therapy of prostate cancer patients using a mouse model.	Andrology 4(5):964-971	Original Article
84	Yanishi M	腎泌尿器外科	Short-term outcome and quality of life in kidney transplant recipient with monoclonal gammopathy.	CEN case reports 5(2):168-172	Case report
85	Yoshida T	腎泌尿器外科	Preoperative Pyuria Is a Poor Prognostic Factor in Patients With Urothelial Carcinoma of the Upper Urinary Tract After Surgery.	Clinical genitourinary cancer 15(4):e543-e550	Original Article
86	Takizawa N	腎泌尿器外科	Novel strategy for cystitis glandularis: Oral treatment with cyclooxygenase-2 inhibitor.	International Journal of Urology 23(8):706-708	Case report
87	Yoshida T	腎泌尿器外科	Perioperative change in neutrophil-lymphocyte ratio predicts the overall survival of patients with bladder cancer undergoing radical cystectomy.	Japanese journal of clinical oncology 46(12):1162-1167	Original Article
88	Yoshida T	腎泌尿器外科	Successful management of a patient with radiological presentation of choriocarcinoma syndrome before induction chemotherapy	Journal of Cancer Research and Therapeutics (オンライン)	Case report
89	Yanishi M	腎泌尿器外科	Correlation of whole kidney hypertrophy with glomerular over-filtration in live, gender-mismatched renal transplant allografts.	Nephrology 22(12):1002-1007	Original Article
90	Yanishi M	腎泌尿器外科	Urinary l-type fatty acid-binding protein is a predictor of early renal function after partial nephrectomy.	Renal failure 39(1):7-12	Original Article
91	Yanishi M	腎泌尿器外科	Comparison of Cosmesis and Body Image After Laparoendoscopic Single-Site Versus Conventional Laparoscopic Donor Nephrectomy.	Transplantation proceedings 48(3):729-733	Original Article

小計
13

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を
附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算
定

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article, Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別
92	Yoshida T	腎泌尿器外科	Prognostic impact of perioperative lymphocyte-monocyte ratio in patients with bladder cancer undergoing radical cystectomy.	Tumor biology 37(8):10067-10074	Original Article
93	Yoshida T	腎泌尿器外科	Comparison of Nephroscope-Assisted "Pulling-Thread" Technique and Conventional Open Placement of Peritoneal Dialysis Catheters in Patients with End-Stage Renal Disease.	Urology 97:261-265	Original Article
94	Inoue T	腎泌尿器外科	Wideband Doppler Ultrasound-guided Mini-endoscopic Combined Intrarenal Surgery as an Effective and Safe Procedure for Management of Large Renal Stones: A Preliminary Report.	Urology 95:60-66	Original Article
95	Yoshida T	腎泌尿器外科	Intravesical Prostatic Protrusion as a Predicting Factor for the Adverse Clinical Outcome in Patients with Symptomatic Benign Prostatic Enlargement Treated with Dutasteride.	Urology 91:154-157	Original Article
96	Taniguchi H	腎泌尿器外科	Multi-Institutional Survey of Medical Treatment for Late-Onset Hypogonadism in Japan.	American journal of men's health 11(2):376-379	Original Article
97	Taniguchi H	腎泌尿器外科	Expression of hOvol2 in the XY body of human spermatocytes.	Andrologia 49(1):e12599	Original Article
98	Yoshida T	腎泌尿器外科	Prognostic Impact of Renin-Angiotensin Inhibitors in Patients with Bladder Cancer Undergoing Radical Cystectomy.	Annals of surgical oncology 24(3):823-831	Original Article
99	Matsuda T	腎泌尿器外科	Laparoscopic adrenalectomy: the 'gold standard' when performed appropriately.	BJU international 119(1):2-3	Others
100	Yanishi M	腎泌尿器外科	Laparoendoscopic Single-Site Surgery for Treatment of Urachal Remnants: a comparison of perioperative outcomes and cosmesis.	The Canadian journal of urology accepted:00	Original Article
101	Yanishi M	腎泌尿器外科	Influence of scars on body image consciousness with respect to gender following laparoendoscopic single-site versus conventional laparoscopic surgery.	Scandinavian journal of urology 51(1):57-61	Original Article
102	Yanishi M	腎泌尿器外科	Factors Associated With the Development of Sarcopenia in Kidney Transplant Recipients.	Transplantation proceedings 49(2):288-292	Original Article
103	Sugi M	腎泌尿器外科	Introduction of an Enhanced Recovery after Surgery Protocol for Robot-Assisted Laparoscopic Radical Prostatectomy.	Urologia internationalis 99(2):194-200	Original Article
104	Fujikawa Y	眼科	Latent TGF-β binding protein 2 and 4 have essential overlapping functions in microfibril development.	Scientific Reports 7:43714	Original Article

小計
13

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を
 定 附属している大学の講座等当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算
 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet alとする。
 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
 (出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
 記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
105	Shibata SB	耳鼻咽喉科頭頸部外科	RNA Interference Prevents Autosomal-Dominant Hearing Loss	American journal of human genetics 98(6):1101-1113	Others
106	Konishi M	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Reexamination of Etiology and Surgical Outcome in Patient With Advanced External Auditory Canal Cholesteatoma	Otology & neurotology 37(6):728-734	Others
107	Hamada S	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Nasal exhalation of inhaled beclomethasone hydrofluoroalkane-134a to treat chronic rhinosinusitis.	The journal of allergy and clinical immunology. In practice 4(4):751-752	Original Article
108	Konishi M	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Hematogenous Renal Cell Carcinoma Metastasis in the Postoperative Temporal Bone.	Case reports in oncology 10(1):212-216	Case report
109	Suzuki K	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Mammary Analogue Secretary Carcinoma Presenting as a Cervical Lymph Node Metastasis of Unknown Primary Site: A Case Report.	Case reports in oncology 10(1):192-198	Case report
110	Miyamoto M	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Residual Recurrent Nerve Paralysis After Esophagectomy is Associated with Preoperative Lower Serum Albumin.	Dysphagia 32(4):520-525	Others
111	Suzuki K	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Enhancement of Anti-Inflammatory and Osteogenic Abilities of Mesenchymal Stem Cells via Cell-to-Cell Adhesion to Periodontal Ligament-Derived Fibroblasts.	Stem cells international 2017:3296498(オンライン)	Original Article
112	Kariya S	放射線科	Embolization for Thoracic Duct Collateral Leakage in High-Output Chylothorax After Thoracic Surgery.	Cardiovascular and interventional radiology 40(1):55-60	Original Article
113	Harima Y	放射線科	A multicentre randomised clinical trial of chemoradiotherapy plus hyperthermia versus chemoradiotherapy alone in patients with locally advanced cervical cancer	International journal of hyperthermia 32(7):801-808	Original Article
114	Sumita K	放射線科	Re-irradiation for locoregionally recurrent tumors of the thorax: a single-institution, retrospective study.	Radiation oncology 11(1):104	Original Article
115	Kariya S	放射線科	Embolization for Thoracic Duct Collateral Leakage in High-Output Chylothorax After Thoracic Surgery.	Cardiovascular and interventional radiology 40(1):55-60	Original Article
116	Kasamatsu A	産婦人科	Prediction of urine volume soon after birth using serum cystatin C	Clinical and experimental nephrology 20(5):764-769	Original Article
117	Tsuzuki T	産婦人科	Effects of the hypoxia-inducible factor-1 inhibitor echinomycin on vascular endothelial growth factor production and apoptosis in human ectopic endometrial stromal cells.	Gynecological endocrinology 32(4):323-328	Original Article

小計
13

- (注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を
 定 附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
 記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別
118	Okamoto A	麻酔科	The antioxidant N-acetyl cysteine suppresses lidocaine-induced intracellular reactive oxygen species production and cell death in neuronal SH-SY5Y cells.	BMC anesthesiology 2016(16):104	Original Article
119	Yoshida T	麻酔科	Analgesic efficacy of bilateral continuous transversus abdominis plane blocks using an oblique subcostal approach in patients undergoing laparotomy for gynaecological cancer: a prospective, randomized, triple-blind, placebo-controlled study.	British journal of anaesthesia 117(6):812-820	Original Article
120	Umegaki T	麻酔科	Rapid development of a spinal epidural hematoma following thoracic epidural catheter removal in an esophageal carcinoma surgical patient: a case report.	JA Clinical Reports 2:37	Case report
121	Nakajima Y	麻酔科	Controversies in the temperature management of critically ill patients.	Journal of anesthesia 30(5):873-883	Review
122	Yoshida T	麻酔科	Unintentional epidural placement of a thoracic paravertebral catheter inserted using an ultrasound-guided technique: a case report.	Journal of anesthesia 30(4):727-730	Case report
123	Umegaki T	麻酔科	Impact of hydroxyethyl starch 70/0.5 on acute kidney injury after gastroenterological surgery.	Korean journal of anesthesiology 69(5):460-467	Original Article
124	Yamaguchi R	麻酔科	VHL-deficient renal cancer cells gain resistance to mitochondria-activating apoptosis inducers by activating AKT through the IGF1R-PI3K pathway.	Tumour biology 37(10):13295-13306	Original Article
125	Yoshida T	麻酔科	Ultrasound-guided obturator nerve block: a focused review on anatomy and updated techniques.	BioMed research international 2017(7023750):1-9	Review
126	Kusunoki M	麻酔科	Effect of high-dose intravenous immunoglobulin administration on the levels of interleukin-6 in patients with sepsis.	Journal of Intensive and Critical Care 3(1):7	Original Article
127	Kinoshita Y	病態検査	Endocervical metastasis of pancreatic cancer:A rare case report of long-term survival.	Human Pathology: Case Reports 5:34-38	Case report
128	Ishida M	病態検査	Mucinous carcinoma occurring in the ceruminous gland.	Pathology international 66(12):710-712	Case report

小計
11

合計
128 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を
 定 附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算
 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet alとする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
 (出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
 記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ○申請書手続き及び判定の通知 ○研究の実施及び報告 ○有害事象の報告 ○健康被害に対する保障 ○実施制限及び再審査 ○公開	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 学連携活動に伴い発生する利益相反を適切にマネジメントすることに関し必要な事項を定めることにより、本法人及び教職員等の社会的信頼を確保するとともに、教育、研究及び社会への貢献を継続的かつ適切に遂行することを目的としている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年10回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回 + (DVD講習11回)
・ 研修の主な内容 ○事例に学ぶがん臨床試験の解釈とpitfall ○臨床試験を始める時に知っておいてほしいこと ○昨今の研究不正について ○介入侵襲を伴う臨床研究におけるモニタリング	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

多くの診療各科ではその所属する学会が定める専門医を目指して研修が行われますが、本院では研修の年ごとの具体的目標と研修計画が設定されています。また、研修を円滑に進捗させるため研修進捗状況の把握、評価し問題があれば改善を勧告する後期研修システムを備えています。

また、手術支援ロボット ダ・ヴィンチSiの導入など、高度かつ先進的な医療に関する研修をおこなっています。

平成25年4月には、本院に直結する新学舎がオープンし、最新の研究室、基本的な医療技術及び医療実践能力の向上を目的としたシュミレーションセンターや電子ジャーナルを取り入れた図書館などを備え研修を最高レベルで一貫して行える体制を整えています。

2 研修の実績

研修医の人数	83人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
野村 昌作	血液呼吸器膠原病感染症内科	診療部長・主任教授	36年	
塩島 一郎	循環器腎内分泌代謝内科	診療部長・主任教授	31年	
岡崎 和一	消化器肝臓内科	診療部長・主任教授	39年	
福永 幹彦	心療内科	診療部長・主任教授	32年	
日下 博文	神経内科	診療部長・主任教授	40年	
奥川 学	精神神経科	診療科長・准教授	24年	
金子 一成	小児科	診療部長・主任教授	33年	
権 雅憲	外科	診療部長・主任教授	36年	
湊 直樹	心臓血管外科	診療部長・主任教授	36年	
村川 知弘	呼吸器外科	診療部長・主任教授	25年	
浅井 昭雄	脳神経外科	診療部長・主任教授	36年	
飯田 寛和	整形外科	診療部長・主任教授	43年	
長谷 公隆	リハビリテーション科	診療部長・診療教授	32年	
楠本 健司	形成外科	診療部長・主任教授	37年	
岡本 祐之	皮膚科	診療部長・主任教授	39年	
松田 公志	腎泌尿器外科	診療部長・主任教授	39年	
高橋 寛二	眼科	診療部長・主任教授	33年	
岩井 大	耳鼻咽喉科	診療部長・主任教授	34年	
谷川 昇	放射線科	診療部長・主任教授	32年	
岡田 英孝	産婦人科	診療部長・主任教授	24年	
上林 卓彦	麻酔科	診療部長・主任教授	30年	
薦 幸治	臨床検査医学科	診療部長・主任教授	21年	
植村 芳子	病理診断科	診療部長・主任教授	36年	
鋏方 安行	救急医学科	診療部長・主任教授	34年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

① 「核酸アナログ薬中止に伴う、HBsAg定量測定の有用性」

② 「検体の取り扱い 検体提出時に医療安全面から注意すること」

③ 「高血圧と臨床検査」

・研修の期間・実施回数 3回（①平成28年6月7日 ②平成28年9月8日 ③平成29年3月21日）

・研修の参加人数 ①83名 ②81名 ③35名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容：二次医療圏内の医療関係職種を対象とした災害医療研修会

テーマ：「災害医療体制について」「大阪府の災害時の情報収集システムについて」

・研修の期間：平成29年3月22日

・実施回数：1回

・研修の参加人数：49名（見学7名含む）

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 澤田 敏
管理担当者氏名	事務部長 川村元伸、看護部長 安田照美、薬剤部長 岡崎和一

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	<ul style="list-style-type: none"> ・保管部署で管理 ・患者データの抽出は、所定の抽出依頼書に所属部門長の承認を受けた上で医療情報部へ申請を行う。医療情報部長は利用目的を審査の上患者データの抽出を行う。依頼者は患者データの利用が完了次第速やかに依頼者の責任のもと患者データを削除する。
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	<ul style="list-style-type: none"> ・保管部署で管理
		高度の医療の提供の実績	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	
		高度の医療の研修の実績	
		閲覧実績	
		紹介患者に対する医療提供の実績	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医用工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医用工学センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医用工学センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医用工学センター		

・保管部署で管理

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	用度課
		監査委員会の設置状況	法人 総合企画課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
職員研修の実施状況	医療安全管理部		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	管理課		

・保管部署で管理

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 澤田 敏
閲覧担当者氏名	管理課長 杉上 弘之 医事課長 山本 和彦 病歴情報課長 田中 裕子
閲覧の求めに応じる場所	情報ライブラリー室
閲覧の手続の概要 ・ 閲覧申請書を記入の上、申請窓口である管理課へ提出する。	

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医 師	延 0件
	歯 科 医 師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無																		
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 医療安全管理に関する基本的考え方2) 医療安全管理対策委員会その他の組織に関する基本的事項3) 職員に対する医療安全管理のための研修に関する基本方針4) 医療事故報告等の医療安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針5) 医療事故発生時の対応に関する基本方針6) 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針（患者等に対する当方針の閲覧に関する基本方針を含む）7) 患者からの相談への対応に関する基本方針8) その他医療安全の推進のための必要な基本方針																			
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況																			
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 28 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理対策委員会（12回）</p> <p>医療事故対応委員会（1回）</p> <p>セーフティーマネージャー委員会（4回）</p>																			
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 21 回																		
<p>・ 研修の主な内容：</p> <table border="0"><tr><td>○インフォームドコンセントと記録</td><td>○医療安全大会</td></tr><tr><td>○診療のルール・インシデントの報告ルール</td><td>○事例検討会</td></tr><tr><td>○院内の安全ルール</td><td>○医療訴訟ガイダンス</td></tr><tr><td>○臨床検査セミナー</td><td>○苦情・クレーム対応</td></tr><tr><td>○チームSTEPS</td><td>○NST大会</td></tr><tr><td>○薬剤・食物のアレルギーについて</td><td>○H28医療安全活動のまとめ</td></tr><tr><td>○災害医療研修会</td><td>○B型肝炎ウイルス再活性化のリスクとその対策</td></tr><tr><td>○医療安全・感染合同研修</td><td>○職場単位での出張研修会</td></tr><tr><td>○輸血について</td><td>○職場単位のDVD上映</td></tr></table>		○インフォームドコンセントと記録	○医療安全大会	○診療のルール・インシデントの報告ルール	○事例検討会	○院内の安全ルール	○医療訴訟ガイダンス	○臨床検査セミナー	○苦情・クレーム対応	○チームSTEPS	○NST大会	○薬剤・食物のアレルギーについて	○H28医療安全活動のまとめ	○災害医療研修会	○B型肝炎ウイルス再活性化のリスクとその対策	○医療安全・感染合同研修	○職場単位での出張研修会	○輸血について	○職場単位のDVD上映
○インフォームドコンセントと記録	○医療安全大会																		
○診療のルール・インシデントの報告ルール	○事例検討会																		
○院内の安全ルール	○医療訴訟ガイダンス																		
○臨床検査セミナー	○苦情・クレーム対応																		
○チームSTEPS	○NST大会																		
○薬剤・食物のアレルギーについて	○H28医療安全活動のまとめ																		
○災害医療研修会	○B型肝炎ウイルス再活性化のリスクとその対策																		
○医療安全・感染合同研修	○職場単位での出張研修会																		
○輸血について	○職場単位のDVD上映																		
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況																			
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 電子化入力による運用をしている。第 1 報は全職員、第 2 報はセーフティーマネージャーが確認の上、入力を行う。2) 事故報告等の目的は、「個人を罰することではなく事故の再発防止に活用する事である」と定めている。3) 報告すべき事項は、療養指導・情報提供に関することからその他まで 29 項目であり、項目の中には、入院患者が死亡、死産した場合の死亡の事実・死亡前の状況、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったもので院内で定めた水準以上の事象が発生した際の事実と発生前の状況などの項目も含まれている。4) 報告先は、セーフティーマネージャー、所属部門の部長を経て医療安全管理部、病院長である。緊急を要する場合は、直接病院長へ報告し、指示を受けて対処する。5) 医療安全管理部は報告をうけて速やかに内容を把握し、当該のセーフティーマネージャーと分析し、対策を講じる。6) 適切な報告のための職員への指導や研修																			

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 1) 死亡・死産報告の義務化と合併症報告の対象の一部基準化
- 2) 医療安全管理マニュアルの年1回の改訂
- 3) 計画的な医療安全講習の実施。受講内容の理解度を測る確認テストを兼ねたアンケートの実施
- 4) 技術研修（超音波装置を使用しての中心静脈穿刺）
- 5) 新入職者、中途入職者への医療安全に関するオリエンテーション
- 6) 医療事故防止策は、セーフティーマネージャーが中心となり、時系列と必要に応じてRCA分析を行い、背景要因を明らかにすることから立案を行う
- 7) 事例から検討された医療の安全確保のための方策の職員への周知と周知状況の確認
- 8) セーフティーマネージャー会への研修医の出席
- 9) 毎月、部署やセーフティーマネージャー委員へ医療安全の情報を広報するマンスリーレポートの配布。
- 10) 医療安全管理部のHPによる広報活動

<安全ラウンド>

- 1) テーマに沿ったセーフティーマネージャー委員を交えた院内ラウンド
- 2) 医療事故発生時、発生部署、関連部署への聞き取り
- 3) 日本私立医科大学協会による他の私立医科大学との相互ラウンド

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： Ⅰ 病院感染対策に関する基本的な考え Ⅱ 感染対策委員会の設置 Ⅲ 病院感染対策マニュアル Ⅳ 感染症の報告 Ⅴ 病院感染発生時の対応 Ⅵ 職員研修の基本方針 Ⅶ 患者への指針の公開	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： ○MRSAおよび多剤耐性菌の検出状況把握と対策 ○抗菌薬の使用状況調査と感受性の推移調査 ○抗菌薬使用報告書、TDM等の抗菌薬適正使用状況調査 ○院内感染発生時の対応、対策 ○感染対策研修会の企画および開催 ○院内ラウンド サーベイランスの実施 ○血液培養陽性症例ラウンドの実施 ○針刺事故の発生状況と事故防止対策の検討 ○感染防止対策地域連携合同カンファレンスでの報告 ○新型インフルエンザ等の対策	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 10 回
・ 研修の主な内容： ○昨年度針刺し血液暴露データと対策 ○病院職員として知っておくべき感染対策 ○薬の効かない菌にどう備えるか ○抗菌薬勉強会 ○病棟における輸液調整の注意点 ○抗菌薬の適正使用について ○血流感染対策 ○感染対策上知っておくべき耐性菌 ○消毒薬について ○洗浄・消毒について ○医療安全・感染対策研修会 ○インフルエンザ・ノロウイルス対策 ○医療安全大会 ○感染対策マニュアル変更の要点 ○感染対策に用いられる遺伝子検査 ○クロストリジウムディフィシル ○やっぱり怖い食中毒 ○年間データ報告	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 病棟ラウンド (ICTラウンド) 時の監査内容のフィードバック 感染対策研修会の開催、DVD上映	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
・ 研修の主な内容： ○アレルギーについて（薬剤・食物） ○事例検討会（経口抗がん剤による重篤な副作用から死亡に至った事例） ○B型肝炎ウイルス再活性化のリスクとその対策	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （有・無） ・ 業務の主な内容： 処方から投薬までの一連の業務手順は、各部門のメンバーで構成される委員会を設置し検討したうえで、「内服・外用薬の指示&実施 運用マニュアル」を作成し周知している。 また、手順書順守記録の該当チェック項目の確認により、遵守状況を把握している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○常備薬のアダラートに舌下禁忌のリマインダーを設置 ○「術前中止薬一覧表」に血栓症リスクのある女性ホルモン剤を追加 ○麻薬処方箋様式を変更し麻薬の部所間移動時の取り決めを制定 ○医療安全情報による注意喚起 ○（アレルギー情報の取扱いに関する再確認など） ○ワーファリン錠処方時における規格の誤選択への防止対策 ○内視鏡センターにおける向精神薬出納管理の運用変更	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 156 回
・ 研修の主な内容： ○特定品目（人工心肺、人工呼吸器、除細動器、閉鎖式保育器、血液浄化装置、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線装置）に関する取扱い説明、インシデント事案を含めた研修 ○新規購入に伴う取り扱い研修実施 ○新人研修医、看護師に対するシリンジ、輸液ポンプ使用説明実施	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (①・無) ・ 保守点検の主な内容： ○放射線関連装置は放射線治療部において、その他の特定医療機器については医用工学センターが保守点検計画書を作成し、それに基づき定期点検を実施、点検記録簿を作成している。 特定品目以外では電気メス、シリンジ、輸液ポンプ、ペースメーカー、麻酔器、逐次型空気圧式マッサージ器等も保守点検を実施している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (①・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○当院に設置（使用）や関係しているものは医用工学センター及び医療機器安全管理責任者へ書面にて報告されないようを吟味検討した上で、部署に配置している医療機器安全担当者へ書面やメールで情報発信を行っている。また、医用工学センターHP上で医療機器安全情報もUPしている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>組織分掌規則に医療安全管理責任者は、「医療安全管理部、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する」と明記している。 また、医療安全管理責任者は副院長ならびに医療安全管理部門の部長、医療安全管理対策委員会の副委員長、薬剤部顧問である。一方、医薬品安全管理責任者並びに医療機器安全管理責任者は医療安全管理対策委員会の委員であることから、医療安全管理委員会に業務を報告する。以上のような配置により、医療安全管理責任者は医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (4 名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>1 ヶ月単位で「院内医薬品使用状況一覧」を作成、使用量や金額使用量を集計して、当院での使用状況を把握している。</p> <p>国内：厚生労働省の医薬品・医療機器等安全性情報、医薬品医療機器総合機構 (PMDA) など 海外：アメリカ食品医薬品局 (FDA) の Med Watch Safety Alert、カナダ保健省の New Safety Information、欧州医薬品庁 (EMA) など その他：添付文書やインタビューフォーム、製薬会社からの情報 など</p> <p>上記の医薬品安全使用に関する情報は、ファイリングして整理しており、必要に応じてその情報をメール送信にて院内周知している。</p> <p>また、過去の配信記録は職員がいつでも閲覧できるようホームページ上に整理している。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>調剤時に処方箋を確認し、処方薬剤が適応外又は併用禁忌等の使用方法に該当するか否かを把握する。該当する場合は、コピーをとり保管している。</p> <p>上記に該当する場合には、薬学的知見に基づき、調剤者および監査者は、提出された文献等を参考に使用の必要性やリスク検討を加え、処方の妥当性等を確認する。</p> <p>適応外または、併用禁忌等について疑義照会した場合の照会内容は、記録した処方箋のコピーを収集して記録として綴り、定期的に (毎月) 医薬品安全管理責任者に報告し、保管している。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (有)・無</p>	

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)
- ・ 活動の主な内容：
高難度新規医療技術評価委員会に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めること。
当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行つた診療科の長に対しその結果を適否結果通知書（様式第2号）により通知すること。
当該高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。
高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況の確認を行うこと。
高難度新規医療技術の提供の適否等について決定した時及び高難度規程に定める事項の従業者の遵守状況を確認した時に、その内容について病院長に報告すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)
- ・ 活動の主な内容：
未承認新規医薬品・医療機器等評価委員会（に対して当該未承認新規医薬品・医療機器等の適否、使用条件等について意見を求めること。
当該未承認新規医薬品・医療機器等の使用の適否、使用条件等について決定し、申請を行つた診療科の長に対しその結果を適否結果通知書（様式第4号）により通知すること。
当該未承認新規医薬品・医療機器等を用いた医療が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。
未承認新規医薬品・医療機器等が適正な手続に基づいて使用されていたかどうか、従業者の遵守

状況の確認を行うこと。

未承認新規医薬品・医療機器等の使用の適否、使用条件等について決定した時及び未承認規程に定める事項の従業者の遵守状況を確認した時に、その内容について病院長に報告すること。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・無)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・無)

⑨ 監査委員会の設置状況

・無

・監査委員会の開催状況：年2回 ※今年度開催予定回数

・活動の主な内容：

附属病院の医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況についての管理者からの報告の求め及び必要に応じた確認の実施。

必要に応じ、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう、理事長及び附属病院病院長に対しての意見の表明。

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有 ・)

・委員名簿の公表の有無 (・無)

・委員の選定理由の公表の有無 (・無)

・公表の方法：本学ホームページにて公表

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤本 良和	枚方市医師会 会長	○	地域医療に関する 学識経験者	有 ・ <input checked="" type="radio"/>	1
森田 眞照	市立枚方病院 病院長		病院機能に関する 学識経験者	有 ・ <input checked="" type="radio"/>	1
永井 仁美	大阪府健康医療 部保険医療室 副理事		公衆衛生に関する 学識経験者	有 ・ <input checked="" type="radio"/>	1
吉野 敬昌	枚方市信用金庫 理事長		医療を受ける側の 代表者	有 ・ <input checked="" type="radio"/>	2
谷川 昇	関西医科大学 医学部 放射線科学 講座教授		医療に関する学識 経験者	<input checked="" type="radio"/> ・ 無	1
宮良 高維	関西医科大学 医学部		医療・感染に関す	<input checked="" type="radio"/> ・ 無	1

	内科学第一講座 診療教授		る学識経験者		
--	-----------------	--	--------	--	--

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

<p>⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 611 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 19 件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 <p>死亡・死産報告と合併症報告の義務化について医療安全研修を通じて全職員へ入力方法等もふまえて研修を実施している。</p> <p>電子カルテのトップページに入力についての情報を掲載している。セーフティマネージャー委員会での周知、マンスリーレポートでの周知、</p> <p>院内で発生した死亡情報を確認し、インシデントレポート報告がされていない診療科等には報告するよう督促を行うなど活動をしている。</p>
<p>⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り (<input checked="" type="checkbox"/> (病院名：杏林大学医学部付属病院) ・無) ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ (<input checked="" type="checkbox"/> (病院名：杏林大学医学部付属病院) ・無) ・技術的助言の実施状況 <p>タイムアウトについては実施部署を増やすよう取り組んでいる。薬剤部の業務量は現在精査している。医療機器の中央管理については、病院が検討している外来再編の構想へその旨ラウンドにおいて技術的助言があったことを考慮するよう働きかけを行う。</p>
<p>⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 <p>患者相談窓口の趣旨、設置場所、担当者と責任者、対応時間等は院内に掲示されており、患者窓口運用規程によって定められている。また相談者が不利益を受けないよう配慮し個室にて相談に応じている。相談内容によってはインシデントレポートによる報告が行われ、一部内容は医療安全管理対策委員会にも報告されて、対応を要する事項については委員会にて対策について検討している。</p>
<p>⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無)

- ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無 (有 ・ 無)
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有 ・ 無)

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
職種横断的な内容になるよう配慮し、事例等を中心にテーマを決めて年間スケジュールを計画の上実施している。職員間の連携や高度な医療を提供できるように必要な技能や知識を盛り込んだ内容を実施している。
- インフォームドコンセントと記録
- 診療のルール・インシデント報告のルール等
- チーム STEPPS
- 薬剤・食物のアレルギーについて
- インシデント事例の具体的対策

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況
- 【管理者】
- 平成 28 年 11 月 24 日 平成 28 年度「医療安全に関するシンポジウム」 厚生労働省 近畿厚生局
- 平成 28 年 11 月 4 日～5 日 「平成 28 年度第 2 回医療安全管理者養成研修会」 一般社団法人
- 平成 28 年 12 月 9 日～10 日 「平成 28 年度第 2 回医療安全管理者養成研修」 一般社団法人
医療の質・安全学会
- 【医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者】
- 平成 28 年 11 月 24 日 平成 28 年度「医療安全に関するシンポジウム」 厚生労働省 近畿厚生局
- 平成 28 年 12 月 8・9 日 平成 28 年度 第 2 回医療安全管理者養成研修会 一般社団法人
医療の質・安全学会
- 【医療機器安全管理責任者】
- 日本精神病院協会 医療安全管理者養成研修会受講予定 (H29. 7. 20、21 H29. 8. 31 9. 1、2)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	④・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 国際標準化機構（ISO15189認定） 平成25年8月15日認定 ※臨床検査部	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
・情報発信の方法、内容等の概要 【発信方法】 当院ホームページ 【内容の概要】 医療圏における基幹病院の一つとして最先端医療、高度医療をおこなっており、患者さんが安心できる安全で最新の医療の提供に努め、全ての人に平等で開かれた大学病院としての社会的責務を果たしている。 また、災害拠点病院・がん診療連携拠点病院・高度救命救急センターの指定を受けており、診療の多様化にも対応し、広く地域医療機関との連携を図り医療圏全体の充実に貢献している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 センター化を推進し、診療科や部門の枠組みを超えてチーム医療を実施している。 〇がんセンター：化学療法部門と緩和ケア部門を担当しており、関連する診療科で協力し、より効率的で質の高いがん治療を提供している。	

○ハートセンター：循環器内科・心臓血管外科が連携して循環器疾患の治療に当たっている。

○内視鏡センター：消化器肝臓内科、消化管外科、呼吸器内科、呼吸器外科及び関連診療科が協力して、消化器及び呼吸器に関連する内視鏡治療を積極的に行っている。

○脳卒中センター：脳神経外科、神経内科、救急医学科、リハビリテーション科及び関連診療科が協力して超急性期に対する最新かつ質の高い脳卒中治療を提供している。

○腎センター：腎臓内科、腎泌尿器外科、糖尿病科の医師以外に健康科学センター、看護師、管理栄養士、薬剤師が連携し、「全腎的」な診療や支援を提供している。